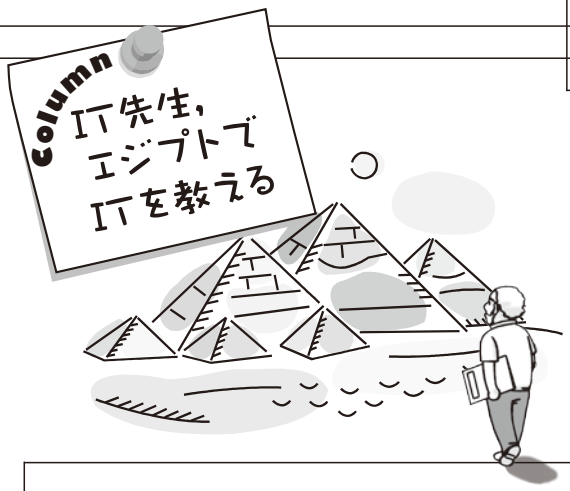

応般

第6回（最終回）

E-JUST はこれからどうなる？

竹内郁雄（早稲田大学）

E-JUST とそれを支援する国内 4 大学との定例の会議に提出された資料を見て改めて分かったことがある．エジプトにある 18 の（5 年制の工学部を含む）総合国立大学はマスプロ大学だと初回に紹介したが，より正確には教員・学生比が 1：20 ～ 1：50 とのこと．しかし，最大のカイロ大学の工学部・大学院に限ると，それよりはちょっとましだった．カイロ大学の教員・学生（1 年～ 5 年生および院生）比は約 1：16 である．

E-JUST 的には工学系大学院が関心事だ．カイロ大では全教員 1,000 人に対し，修士課程学生が 4,000 人，博士課程学生が 1,200 人．高い教育レベルで定評のあるアレクサンドリア大学（アレキ大）では全教員 729 人に対し，修士 470 人，博士 61 人．学部生を除けば，マスプロとはほど遠い数値である．驚くのは，毎年の大学院入学者に対して，毎年の修了者の割合が，カイロ大修士・博士がそれぞれ約 10%，20%，アレキ大修士・博士がそれぞれ約 40%，90%以上．アレキ大の博士の割合は例外的に高いが，修士については日本の大学に比べてかなり低い．全国の大学で見ると，カイロ大学のデータに近い．入学しても，企業に勤めたままでほとんど大学に来ない学生や，外国の大学に行ってしまう学生がいるからとのことだが，それだけの理由とは思えないほどの低さだ．

それと直接関係するかどうか定かではないが，私が指導にかかわっていた修士学生の卒業試験（修士論文の発表と質疑応答）を，（協力大学教員は卒業試験担当者ではないので）日本から Skype で見ていて，これまた驚いた．発表 1 時間，質疑応答 1 時間なのである．おかげで夕食が 1 時間以上お預けになった． 学生が私のために発表用のノート PC のカメラとマイクを使ってスクリーンが見えるように実況してくれたので，質疑応答の質問のほうがワンワンして聞き取りにくかったのだが，日本だったら博士論文審査に近いレベルで細かいことに踏み込んだ質問が多かった．当初の計画通り，コンピュータ・情報工学専攻が 80 人の修士学生を入学させるようになったら，修士の卒業試験だけで毎年 160 時間を要してしまう．高等教育省の奨学金をもらって入ってくる学生が多数だから，上記のような低い修了生比率はあり得ない．留年もしにくいはずだ．長時間の手間をかける卒業試験は，教育熱心というのか，修士修了の関門が非常に高いというのか…．日本の大学でこれと同じことができるのだろうかと考えてしまう．それとも学生の少ない今だからということなのだろうか．そういえば，審査の先生たちは質疑を楽しんでいるように聞こえた．

エジプトの昨今の政治事情もあり，新キャンパス建設は少し遅れそうだ．ということで現在，既存の学生寮の建物を 2 つさらに校舎（研究室）に変更する工事が始まった．寮の内部の壁をぶち抜いて少し広い実験スペースなどをつくるのだ．壁をぶち抜くと，当然レンガのゴミが大量に出る．なんとそれが隣の空き地に無造作に捨てられている．ああ，やっぱりエジプトだなぁと思う．

ゴミ捨て場状態の隣の広い空き地（約 64,000 平米，**写真 1**）を囲むように学生寮が建つが（対面は建設中），今年になって E-JUST がこの広場を，長い折衝の末，関係省庁から所有権を入手することに成功した．ここには太陽光パネルによるクリーンエネルギーでサポートされたショッピングモールや体育施設など，大学の福利厚生施設ができる予定である（**写真 2**）．聞くところによると，こんな場所でも評価額はかなり高いらしい．キャンパス建設とともにこの広場を入手することは E-JUST 関係者の悲願

写真 1　現在の広場の状況．見にくいが写真中央上のほうに四角の大穴がある．左上は現在情報工学専攻が入っている建物（学生寮改）．写真上部に建築中状態のままの学生寮が並ぶ

写真 2　計画されている広場の将来像

だったので，学長の記念講演と祝賀会が開かれた．

そうこうしているうちに，この広場の片隅に巨大な四角い穴が掘られ，周囲に掘り出された土が山盛りになった．おお，素早い．早くも建設の槌音が…，と思ったら大間違い．なんとその土地の所有を主張する何者かがそれを裏付けるべく勝手に掘ったらしい．まったく不思議なことが起こる国である．

掘り返しといえば，何回か話題にした E-JUST 仮キャンパスのネットワーク環境の整備．半年ほどかかって，有線電話が主要な建物に引かれるに至った．スマホに夢中になって歩いていた学生が落ちたという穴もきれいに埋め戻された．で，これで終わりかと思ったら，甘かった．これが ADSL 回線としてつながるために，さらに最低 1 カ月かかるというのだ☆1．すべからくこの調子で，先が思いやられるが，あるエジプト人がこう話してくれた．エジプトでは工事は大体倍ぐらい遅れる．しかし，本当に大事なことで急ぐとなったら工期は半分に縮まる，と．それはそれで恐いが，エジプトらしい気がする．いきなりパワーが出ることがあるのだ．

周囲に建設途上で放置されたふうに見える建物がいっぱいある．いつ工事するのだろうと思っていたら，暑くない夜中にやるんじゃないのと，ある人が言った．ハワイのメネフネ伝説そっくりだ．そういえば借りているアパートの上の階で夜中の 12 時を過ぎてトンテンカンやられたことがよくあったが，つい最近，2 軒隣のアパートの建て替え工事があり，深夜から朝 6 時まで限定で，派手にガガガーッ，ドシャーン．とても安眠できない．ことほど左様に，クルマのクラクションを始め，エジプト人は騒音に無頓着だ．ついでにゴミのポイ捨てにも無頓着．汎化して言えば，なんでもありの国なのである．

なんでもありなのだが，大学の学則や教務細則などにはきわめてリジッドなのが対照的である．現在，早くも学則の改訂が進行しているが，国の機関の承認を得るプロセスにおいて，このリジッドさがかなり時間のかかる要因になっている．そもそも，科目名やシラバスまでもが学則として国の機関の承認を受ける必要があるというのは，日本の大学人としては不思議である．

日本人とは発想の根幹が異なっているように思える，異文化の国エジプトに，どこまで日本的工学教育の精神や方法論が根付くのだろうか．越えないといけない壁は多い．E-JUST ではいろんなことが，遅々して進まない，ではなく，遅々として進んでいる，日本が海外の大学院レベルの国立大学の創立に協力した 1 件目（2 件目はマレーシア日本国際工科院）として，時間がかかっても成功させたいものである．

さて，くだらない話の連続で，さぞや読者諸兄のお目汚しだったと反省しているが，このコラムを今回で最終回としたい．長い間ありがとうございました．（了）

（2012 年 10 月 1 日受付）

☆1　JICA が入っているビルだけは日本側の即断決裁で 1 週間程度でつながった．

竹内郁雄（正会員）　nue@nue.org
1971 年東京大学大学院修了，以降，NTT 研究所，電気通信大学，東京大学を経て現職．東京大学名誉教授．エジプト日本科学技術大学の立ち上げに参加中．未踏 IT 人材・発掘育成事業統括プロジェクトマネージャ．